

## ◇現代社会と青年◇

## 意識の「第一ボタン」

むろだて いさお  
室館 勲株式会社潮流社 社長  
株式会社キャリアアクションサルテイング  
代表取締役社長

若者にリーダーシップ教育をする仕事を始めて約十八年。大学生の就活支援事業「プレスタ」には、ひと学年六千人の登録があります。その多くは紹介です。よく「なぜ紹介で人が集まるのか、良い学生が毎年登録に来るのか」という質問があります。当然ながら、講義の内容や講師が魅力的なこともあります。それ以上に大切にしていることは真剣に教育をすることであり、そこには一定の厳しさがあります。例えば、茶髪やピアス、ヒゲを生やした男子学生もいます。就活支援のみを希望している間は注意をする程度にしています。ただ、月謝を払ってでも社会人と同じようにリーダーシップ養成プログラム「しがく式」を学びたいと希望している学生にはそうはいきません。茶髪・ピアス・ヒゲなどは、入会面接で不合格にしています。これは個性やオシヤレを否定したのではなく、「しがく式」の教育方針・規範のようなものです。プロ野球でも球団ごとのルールがあるのと同じです。

「ウチで学びたいなら、ルールを守ってもらいます。嫌なら辞退してください」と言って「守ります」と言わせることで、意識の「第一ボタン」が掛かるのです。

ただ、慣れてくると緊張感も希薄になりがちです。先日、とある講義で先生が「こんにちは！」としつかり挨拶をしているにも関わらず、生徒は「ちわーっす！」と、声ばかり大きい雑な挨拶をしていたので叱りつけました。「先生に対して心のもった挨拶もできない人が、どんな指導者になるんだ。心を改めなさい」と。

世の中には様々な職場や組織、団体があります。それぞれの特色があつて良いと思います。ただ、世間の目や批判、若者の顔色を必要以上に気にし過ぎて、媚びてしまったり、本質の信念がブレていたりする団体もよく見かけます。

若者の教育で重要なのは、意識の「第一ボタン」として「ここで学び、成長するんだ」という決意をさせることです。企業においては新入社員に「いち早く実力をつけて、会社や社会に貢献するんだ」と決意させることと言ひ換えられるかもしれませんが。心の底から意志を固めた若者は勝手に成長をしていくものです。指導する側が「あの子はモチベーション保っているかな」と心配しているようでは、まず伸びません。指導側がどれだけ突き放しても喰らいついてくる、そんな状態ができてはじめて、本人の実力が身についてくるものです。

それぞれの企業、組織、団体において、何かヒントになれば幸いです。